

信頼が  
心をつなぐ  
JA東京むさし

# 大地と あおぞら

特集 ..... 1  
●組合員大学誌上講座

トピックス ..... 4  
●最近の話題

むさしニュース ..... 6  
●事業案内

資産管理コーナー ..... 7  
●税務署からのお知らせ

お知らせ ..... 8  
●ご案内



江戸東京野菜について話す大竹道茂さん

これからのJA東京むさしを支える組合員リダーを育成する「JA東京むさし組合員大学」。  
平成24年9月27日には、株式会社タニタ 管理栄養士の鹿沼敦子さん、江戸東京・伝統野菜研究会代表の大竹道茂さんを講師に迎え、第8回講座を開催しました(内容は抜粋させていただきました)。

## JA東京むさし 組合員大学誌上講座

JA東京むさし特集

JA東京むさし組合員教育文化事業講演会  
講師 / 株タニタ 管理栄養士 鹿沼敦子 先生  
講師 / 江戸東京伝統野菜研究会 大竹道茂 先生



## 「江戸東京伝統野菜について」



■講師  
江戸東京・伝統野菜研究会代表  
大竹道茂さん

江戸東京・伝統野菜研究会代表。東京農業大学卒。JA東京中央会 元参事。江戸東京野菜コンシェルジュ育成協議会会長。平成元年より江戸東京野菜の復活に取り組んでいる。現在、ブログ「江戸東京野菜通信」で情報発信中。

### 江戸から今日まで つながる命

現在の野菜の多くは固定種ではなく、交配種(F1)のため、タネが取れません。次に育てるときにはタネ屋さんで買わなければなりません。しかし、江戸東京野菜はそのタネを取り、次につなげていくことができず。タネを通して命が今日までつながって来ている。それが江戸東京野菜なのです。

#### 江戸東京野菜とは (JA東京中央会定義)

- 江戸期から始まる東京の野菜文化を継承しているもの
- 在来の固定種であるもの、または在来の栽培法に由来するもの

### 段ボールにキレイに入る 交配種が主流に

昭和40年ごろから流通形態

が変わり、段ボールに形が揃って入るような野菜が必要とされるようになりました。固定種では大きさや長さがバラバラになるので、形の揃うF1を育てる農家が増え始め、昭和60年代には固定種が無くなってしまいう危機を感じ、伝統野菜を守ろうと働きかけました。京野菜や加賀野菜もちょうど同じ頃、固定種を守ろうと動き始めました。

#### 練馬大根が全国へ

徳川5代将軍の綱吉が尾張(愛知県)からダイコンのタネを仕入れ、練馬で育てさせました。これが練馬大根の始まりです。白く、大きく育つ練馬大根のタネは全国に持ち帰られました。三浦大根(神奈川県)、前坂大根(長野県)、山川大根(鹿児島県)など、

練馬大根が基となったダイコンは数多くあります。

#### 小金井市で江戸時代の衣食住がわかる

小金井市には小金井公園に江戸東京たても園があります。また東京農工大学はもとも蚕の学校だったので、江戸時代からの繊維が残っています。あとは「食」が揃えば、小金井市で江戸時代の衣食住がすべて学べるのではないかと、平成19年から市を挙げて江戸東京野菜の普及に取り組んでいます。春にはお花見弁当フェア、秋には黄金井フェアを行い、市内飲食店が参加しています。小金井の組合員さんが一生懸命育て、経済センターに出荷した江戸東京野菜を飲食店の方が買いに来て、調理し、地元の活性化につながっています。

#### 世界のレストランガイドに「江戸東京ベジタブル」が

「ザガットサーベイ」という世界中のレストランを紹介しているガイド本があります。東京の紹介ページには、「お寿司」「天ぷら」の次に「江戸東京ベジタブル」という項目があります。



講師の鹿沼さん、大竹さんと役員、組合員大学受講生

JA東京むさし組合員教育文化事業講演会  
講師／株タニタ 管理栄養士 鹿沼敦子 先生  
講師／江戸東京伝統野菜研究会 大竹道茂 先生

江戸東京野菜はすでに世界に発信されています。

江戸東京野菜は現在、知名度も上がってきましたが、まだまだ生産者が足りていません。

## 江戸東京野菜で都市農業振興を

少しでも構わないので、ぜひ江戸東京野菜をつくっていただきたいです。それが東京むさし管内を盛り上げることに必要で、東京の農業振興につながると考えています。